

令和6年度 学校推薦型選抜試験

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始の合図があった後、最初に問題用紙と解答用紙の確認を行ってください。問題用紙はA4版片面1枚（表紙は除く）で、解答用紙はA3版片面1枚です。枚数の不足、重複のないことを確認してください。
また、印刷が不鮮明な場合は、手を挙げて試験監督員に知らせてください。
3. 受験番号の記入漏れ又は誤記があった場合は失格になります。
4. 解答は、解答用紙に、横書きで記入してください。
5. 下書きは、別紙の下書き用紙を使用してください。
6. 数字2文字以上を続けて記入する場合は、次のように記入してください。

例① 2023年 →

20	23	年
----	----	---

例② 99.9% →

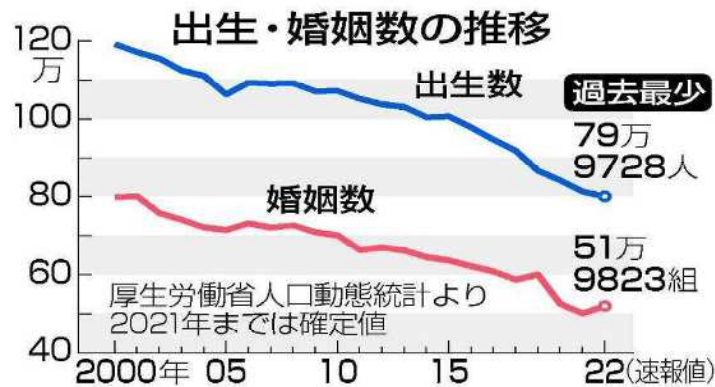
99	.	9	%
----	---	---	---

7. 濁音（が、ぎ、ぐ・・・）、半濁音（ぱ、ぴ、ぷ・・・）は1文字として記入してください。
8. 体調不良やトイレに行きたい場合などは、黙って、手を上げてください。それ以外の途中退室は認めません。
9. 試験監督員の試験終了の合図と同時に解答するのをやめて、着席したまま試験監督員の指示を待ってください。
10. 解答用紙は、未記入のものも含めすべて回収します。なお、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰って構いません。

令和6年度 学校推薦型選抜小論文試験問題

【問】

次のグラフと文章は、我が国の人口動態統計速報値を基に作成されたものである。このグラフと文章を基に、医療に従事する人材の確保において、今後どのような影響が生じるか、あなたの考えを800字以内で述べなさい。



厚生労働省は28日、2022年の人口動態統計の速報値を公表した。年間出生数は79万9728人で、前年と比べ4万3169人(5.1%)減少。1899年の統計開始以来、初めて80万人を割り込み、過去最少となった。

国立社会保障・人口問題研究所が2017年に公表した将来推計人口では、外国人を含む出生数が80万人を下回るのは33年と見込んでいた。岸田文雄首相は「異次元の少子化対策」を打ち出したが、従来の想定を上回るスピードで少子化が進んでいることが明らかになった。

未婚・晩婚化が進む中、20、21年の婚姻数は戦後最少を更新しており、22年の出生数に影響したとみられる。新型コロナウイルスの感染拡大や物価上昇などに伴い、妊娠を控える傾向に拍車がかかった可能性もある。厚労省の担当者は「多くの人が出産や産後育児に不安を感じるなど、コロナの流行が少なからず影響を及ぼしたのではないかと話している。

年間出生数は、第1次ベビーブーム(1947～49年)で約270万人、第2次ベビーブーム(71～74年)で約210万人に上ったが、75年に200万人を割り込むと、減少傾向が続いた。91年以降は増減を繰り返しながら、2016年には100万人、19年には90万人を下回った。

死亡数は、前年比12万9744人(8.9%)増の158万2033人で過去最多を更新した。死亡数から出生数を引いた人口自然減は78万2305人で、初めて70万人を上回った。21年に60万人を超えたばかりで、人口減少も加速している。

婚姻数は、1.1%増の51万9823組で、3年ぶりの増加となった。来年以降の出生数に影響する可能性がある。

速報値には、国内在住の外国人や海外にいる日本人が含まれる。今後公表される確定数は、日本に住む日本人だけが対象で速報より少なくなる。厚労省によると、22年の確定数は76万～77万人台と見込まれる。

【出典】

時事通信ニュース：令和5年2月28日付